

チャイルド・ファンド・ジャパンだより

[スマイルズ] 2012年5月NO.27

# SMILES

<http://www.childfund.or.jp>



シリーズ“遊び”

1

## ぶんぶんゴマ

牛乳パックや厚紙を丸型や四角に切って中心に糸を通し、ぐるぐるまわす「ぶんぶんゴマ」は、日本の子どもたちにもお馴染みの遊び。フィリピンの子どもの作り方は？コーラの瓶のフタを平らにつぶして、キリで穴をあけ、ビニールひもやタコ糸を通してあります。



写真:センター27(イサベラ州サンチャゴ市)

**ChildFund**  
Japan

チャイルド・ファンド・ジャパンは、1975年より、アジアを中心に貧困の中で暮らす子どもの健やかな成長、家族と地域の自立を目指した活動をしています。



～スポンサーシップ・プログラムを支える人々～

その4

チャイルドの家族



～ スポンサーシップ・プログラムを支える人々 ～

その4

# チャイルドの

チャイルド・ファンド・ジャパンは、スポンサーシップ・プログラムを通して、チャイルドの成長支援だけではなく、家族（親）や地域の生活改善を目指す支援を行っています。親たちに対する支援の一つは、様々な研修の実施です。親の役割を積極的に果たして、自分たちの手で子どもの教育を支えていくことが研修の目的です。「チャイルドの家族」を特集する今号では、ギマラス島にある協力センター30で地域の生活改善のために活躍する頑張り屋の母親をご紹介します。

【センター30】

フィリピン

チャイルド・ファンド・ジャパンを通じたスポンサーの皆様のご支援により、1996年から活動しています。ギマラス島の8カ村に住む260人のチャイルドたちと彼らの家族が、教育や保健、職業訓練、生業資金の貸し付けや住民組織作りなどのセンターのプログラムに参加しています。

マニラ

30



## 忙しい毎日

スパン村に暮らすチャイルドのジョン君（16歳、ハイスクール4年生）のお母さん、ネリンさん（37歳）の一日は夜が明けきらない朝5時前に始まります。6時には「サリサリストア」\*を開店するからです。店番をしながら、ネリンさんはお店で人気の「バチョイ」\*\*を仕込みます。ジョン君と妹のマナリンさん（9歳）も起きると、ご飯を炊いたり、おかずを作ったりしてお母さんを手助けします。

お昼と夕方は一日の中でも特に忙しい時です。「バチョイ」を食べるお客さんやお遣いで調味料などを買う近所の子もたちがお店にやって来るからです。少しでも売上げをのばしたいと、夜の9時まで店を開けています。



サリサリストアで忙しく働くネリンさん。

\* サリサリストアの「サリサリ」はタガログ語で“何でも”の意味。家の軒先などに小さなスペースを設け、子どものおやつ、お米や調味料、飲み物、日用雑貨など何でも扱っているお店。



\*\* 豚骨などでダシをとった濃厚スープ麺で、豚肉、レバー、豚皮などの具がのっている。



# 家族



## 生活は変わり始める

ネリンさん一家は以前からこのような生活をしていた訳ではありません。貧しさのどん底にいた家族の生活が変わり始めたのは2003年、ジョン君が小学1年生の時にチャイルドになってからです。ジョン君がスポンサーシップ・プログラムによって教育や「保健・医療」の支援を受けると共に、ネリンさんは「スパン・ペアレンツ・アソシエーション」(協力センターがスパン村で組織化した住民組織)の活動に参加しました。

スパン村以外にも、協力センターが活動する4つの村にはチャイルドの親たちが参加する住民組織があり、各々の住民組織は協力センターと協力してメンバーに研修を行っています。研修の内容は多様で、自分たちの厳しい状況について理解を深めたり、貧しさを軽減するため自分たちができることを話し合ったり、また、商売を始めるためのノウハウを学んだりします。このような地道な研修が実を結び、2003年には5つの住民組織の

連合体である、「BUTIL」(下記囲み参照)を結成し、メンバーを対象に資金貸付を始めました。

ネリンさんも研修に積極的に参加しました。特にビジネスセミナーで、資金調達の方法や商品の価格設定を学んだことがとても役立ったと言います。「人づきあいに積極的」な性格もあり、対面で商売する「サリサリストア」を始める計画を立てました。2005年、「BUTIL」に提出した事業計画が承認され、3,000ペソ(約6,000円)の資金貸付を受けて「サリサリストア」を開店したのです。



BUTILの事務所。土地購入費用と事務所建設費用はBUTILの収益で賄われている。

## 子どもたちの生活を守るために

お店は開店した当初は順調でしたが、数年も経つと近所に他の「サリサリストア」が出店したため、売上が伸びなくなりました。このままでは生活が厳しくなると感じたネリンさんは、仲間からの助言もあり、自分のお店に特徴を持たせるために「バチョイ」を出すことにしました。  
(次ページにつづく)



バチョイ作りを手伝うジョン君。



ネリンさんのお店でバチョイを食べる客とお店を手伝うジョン君(後方)。

## BUTILについて

- 正式名称: Bukluran Tungo sa lisang Layulin = 「ひとつの目標に向けた連帯」を意味
- 組織化: 2003年11月に設立総会を開催
- 団体登録: 2004年3月にフィリピン証券取引委員会 (Securities and Exchange Commission) に Associationとして登録された。
- 出資金: 378,000ペソ(約75万円)
- 組合員数: 264名

数軒の「サリサリストア」が競合する中、自分のお店の「特徴づくり」は功を奏して、固定客の増加につながることができました。今は、売上げも安定し、生活も少し落ち着いてきました。子どもたちの生活を守ることができてネリンさんはホッとしています。

左からジョン君、妹のマナリンさん、ネリンさん(サリサリストアの前で)。



## 地域の生活を改善する

現在ネリンさんは、「スパン・ペアレンツ・アソシエーション」の選挙で役員に選ばれ、財務の責任を負っています。また、「BUTIL」でも役員として書記を担当しています。「忙しい中、たいへんですね」と聞くと、「選ばれるということは、皆が信頼してくれている証し。これまで日本のスポンサーの方や協力センターに大変お世話になっています。地域の生活を改善することで、

恩返しができれば幸せよ」と笑顔で答えてくれました。

女手ひとつで子どもたちを育て、地域の生活改善にも一生懸命のネリンさんの願いは、来年ハイスクールを卒業するジョン君を彼の希望する自動車整備学校に通わせること。ジョン君とネリンさんは自立という目標に向かって着実に歩んでいます。



BUTILの役員会に参加して発言するネリンさん(左から四人目)。



「来年ハイスクールを卒業するジョンを何とか自動車整備学校に入れてやりたい」と話すネリンさん。

### 取材を終えて・・・

「BUTIL」の働きを見て、「一人はみんなのために、みんなは一人のために」という協同組合の合い言葉を思い出しました。チャイルドの親たちが、それぞれの家族の生活を改善しながら、お互いに助け合い、力を合わせ、幸せになろうとしている姿は、まさに協同組合の合い言葉を実践しているように思えます。引き続き皆様からのご支援を心からお願いいたします。

(事務局長 小林 毅)

## 2012年は国際協同組合年です

国連が2012年を国際協同組合年と宣言していることをご存じでしょうか。協同組合が「貧しさの軽減」、「貧しい人々など社会的弱者の参加の促進」、「平和の構築」のために大切な役割を果たしているということが、国際協同組合年と定められた理由です。

チャイルド・ファンド・ジャパンの多くの協力センターが、「貧困の軽減」や「自立」を目指した「協同組合」や、今号でご紹介した「住民組織」の組織化を支援しています。これらの活動が地域の子どもの健全な成長を守ることに繋がります。

## あの日から1年 仮設保育室が完成

大船渡市越喜来浦浜地区で約50年にわたり保育を担ってきた越喜来保育所は、津波によってそのすべてが流されました。その後、近隣にある越喜来幼稚園の職員室や図書会議室が保育所の子どもたちに開放されました。しかし、幼稚園の水道やトイレなどの設備は3歳未満の乳幼児向けの仕様のものではなく、保育のためのスペースも十分確保できず、コンクリートの床の上でお昼寝をするような状況でした。

チャイルド・ファンド・ジャパンは子どもたちの保育環境改善のため、チャイルド・ファンド・アライアンス\*加盟団体からの寄付を活用して、3歳未満の子ども向けの仮設保育室建設を支援しました。保育室は年齢に合わせたトイレや、転落防止の柵など、安全に配慮した設備になっています。3月30日に完成式が行われ、深町正信理事長とチャイルド・ファンド・アライアンスのジム・エマーソン事務局長も出席し、大船渡市教育委員会の今野洋二教育長に記念パネルが手渡されました。式の最後に園児たちが「空より高く」\*\*を元気よく歌ってくれました。

4月より新入園児も迎え、新しい保育室には子どもたちの元気な声が響いています。

\* 発展途上国の子どもたちの支援に取り組む国際的なネットワーク組織。子どもたちに向けたスポンサーシップ・プログラムを実施する12カ国の加盟団体により構成されている。

\*\* 岩手放送が制作した「空より高く～震災地に届け！園児の歌声～」(2011年 日本放送文化大賞ラジオ番組 グランプリ受賞)の番組で紹介されている曲。被災地の人々に大きな励ましとなった。



”空より高く”を元気いっぱい歌う



新しい仮設保育室で給食を待つ子どもたち

## 思い出をいつまでも 『卒業アルバム製作支援』

東日本大震災により経済的に困難な生活を送っている世帯にとって、子どもの教育費は大きな負担となります。被災地にあるいくつかの小・中学校では、卒業生に配布する卒業アルバムのページ数を減らし製作費用を削減することで、保護者の負担を軽減しようとする案が検討されていました。



「ご協力、ありがとう！」思い出が詰まったアルバムを胸に



「あの時の写真だ！」思い出を見せ合う生徒さんたち

「一生に一冊の大切な思い出が詰まった記録なのだから」当初予定していたページ数のアルバムを手元に残してもらえるよう、チャイルド・ファンド・ジャパンは、大船渡市内の全ての小・中学校の卒業生805名分の卒業アルバム製作費用の一部を支援しました。

3月15日に大船渡市立猪川小学校で行われた卒業アルバムの贈呈式で、55名の卒業生たちに小林事務局長がアルバムを手渡しました。子どもたちは自分が写っている写真を見つけて喜び、友だちと夢中でページをめくり、目を輝かせながらアルバムを眺めていました。「これは何の時？」と尋ねると、「遠足!」「運動会!」など、思い出を口々に話してくれました。

小学校で過ごした6年間に学んだこと、楽しかったこと、悔しかったこと、一生懸命取り組んだこと、その大切な思い出一つひとつをアルバムとして形に残すことができました。子どもたちがその思い出と記録を胸に刻んで、新たな生活への希望と活力を持てるよう願っています。

# スリランカから vol.12

## アーユボーワン



アーユボーワン:シンハラ語で「こんにちは」

キャロムはスリランカでとても人気があるゲームのひとつです。木製の正方形のボード(74cm×74cm)と、小さな駒と大きな円盤の駒を使います。小さな駒は主に木製で、3色(白9個、黒9個、赤1個)です。大きな円盤の駒(プラスチック製)を滑らせ、小さな駒に当て、ボードの四隅の穴に落として勝敗を競います。

2人もしくは4人で対戦するこのキャロムは、友だち同士や家族と一緒に遊びます。特にスリランカでは、お通夜で、故人を偲ぶために集まった人々が朝までキャロムをして過ごす習慣があります。

支援地域でも、チャイルドたちは子どもクラブやセンターでキャロムを楽しみます。

夢中になるのはプレーヤーだけでなく、周りの仲間たちも。皆、集まってきて応援合戦が始まります。熱中しながら仲間意識とチームワークが育まれていきます。



子どもクラブでキャロムに熱中するチャイルドたち



村の飲食店でも

# ネパールから ナマステ!

vol.7



ナマステ:ネパール語で「こんにちは」

ネパールの電力は水力発電に頼っているため、毎年乾季の10月から5月まで電気が不足し、計画停電が行われます。3月は1日9時間でしたが、1月には11~14時間の停電でした。停電のピークは、例年雨季直前の5月なので、これからも停電時間の増加が予想されます。停電の時間帯は地区・曜日によって異なりますが、業務時間中の停電は仕事に大きな支障が出ます。そのため、首都カトマンズのホテル、レストラン、商店、銀行、会社の多くは自家発電機を設置しています。チャイルド・ファンド・ジャパンのネパール事務所でも使用していますが、インドからのガソリン供給が滞ると使えません。都市部の一般家庭では発電機よりもバッテリーと整流器(インバーター)が普及しており、電気があるときに充電しておきます。バッテリーの容量にもよりますが、LED(発光ダイオード)の灯りを数カ所つけるだけなら、4~5時間は使用できます。

灯りがないため、子どもたちから「宿題ができない。試験に落ちる。」と言われ、慌てて設備を買いに走る親たちもいます。「何もすることがない」と、早々と寝てしまう人もいます。レストランの経営者は、「3月以降暑くなる時期に冷蔵庫・冷凍庫が使えず、食中毒が心配」と言います。それでも、それぞれが工夫して毎年長時間の停電を乗り切っています。

## ネパール停電事情



家庭に設置してあるバッテリー(左)と整流器

Group/Day	Sunday	Monday	Tuesday
Group 1	03:00-09:00 13:00-19:00	10:00-17:00 20:00-24:00	09:00-15:00 19:00-24:00
Group 2	03:00-10:00 14:00-20:00	03:00-09:00 13:00-19:00	10:00-17:00 20:00-24:00
Group 3	04:00-11:00 15:00-22:00	03:00-10:00 14:00-20:00	03:00-09:00 13:00-19:00

計画停電時間表:日曜日、グループ1は3時から9時までと、13時から19時まで停電(赤囲み部分)

- 【フィリピン】
- ▶ 子どもが読書に親しむプロジェクト
  - ▶ バラワン少数民族生活改善プロジェクト
  - ▶ 協同組合強化支援プロジェクト
- 【ネパール】
- ▶ 子どもにやさしい学校環境整備プロジェクト

## 「子どもが読書に親しむプロジェクト」

### ～本を読む子どもたちの瞳が輝く～

- 協力期間：2011年6月1日～2012年5月31日
- 支援対象：南カマリネス州ナガ市、イリガ市、ケソン州リアル町、西ネグロス州バコロド市、カピテ州ダスマリニャス町、東サマル州ポロンガン町、セブ州バリリ町の公立小学校20校の4年生担当教員65人と4年生1,812人（間接受益者として、対象校の他学年の生徒10,589人）
- 協力団体：チャイルド・ファンド・ジャパン フィリピン事務所、Sa Aklat Sisikat Foundation, Inc.、協力センター10、19、24、35、40、42、46

このプロジェクトは、公立小学校の4年生の子どもたちが、本を読む力、本から学習する力を育むことを目指して昨年度から実施しています。初年度のルソン島北部の18の小学校での実施に続き、今年度はルソン島南部とビサヤ地域の小学校のうち20校を対象に実施しています。

2011年8月、対象校の教員に研修が実施され、各校に60冊の物語を中心とした書籍セットが配布されました。それらの本をもとに、10月末までに全ての対象校で、4年生の子どもたちが31日間、教員と共に毎日読書をするという「読書マラソン」が行われました。

さらに「読書マラソン」を終えた学校には、百科事典など参考書となる書籍を配布し、読書の楽しさを覚えた子どもたちの学習意欲に応える環境づくりを進めました。

このプロジェクトは、スポンサーシップ・プログラムの対象地域内の公立小学校で実施しています。プロジェクトの効果が今後も持続するよう、協力センターを通じて各学校に働きかけていきます。



「読書マラソン」で物語を読みふける4年生（ナガ市サンタ・クルス小学校）

## 「子どもにやさしい学校環境整備プロジェクト」

- 協力期間：2011年4月1日～2016年3月31日
- 支援対象：ラメチャップ郡の3カ村の公立16校（小学校と中学校）に通う生徒（約2,800人）と保護者、教員（103人）、学校運営委員会のメンバー（152人）、PTAのメンバー（151人）
- 協力団体：RBPW (Ramechhap Business & Professional Women)  
\*ネパールの山間部ラメチャップ郡を拠点とするNGO。女性と子どもの権利推進を目標に活動を行なう。

2011年度の「子どもにやさしい学校環境整備プロジェクト」により、ラメチャップ郡ランプール村のサラスウォティ小学校とシデスウォール小学校に、それぞれ1棟4教室の校舎が完成しました。4月中旬の新学期より、幼稚部から小学3年生までの約100名の生徒が、雨漏りの心配がないコンクリート建ての新校舎、広々とした明るい教室で勉強しています。その他、2校で9教室の補修、1校で校庭の整備を支援しました。

このプロジェクトでは、校舎の整備だけではなく、教員への研修も行っています。3カ村、15校の幼稚部から小学3年生までの担当教員26名に、5日間の「子どもにやさしい指導方法」研修を実施しました。参加した教員たちは、一方的な講義ではない生徒との対話を通じた指導方法や、生徒の意見に耳を傾ける重要性、生徒の自主性の育て方などについて学びました。

また、事業を実施するRBPWのスタッフが、これら公立校の学校運営委員会、PTAの会合、職員会議、生徒会などに参加し、どうすれば「子どもにやさしい学校環境」が作れるのか話し合いを重ねました。



完成したシデスウォール小学校と子どもたち



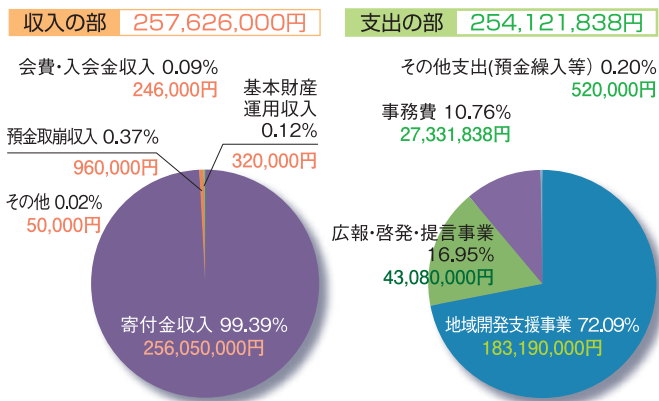
「どうやって生徒の意見を取り入れるの？」指導法を学ぶ教員たち

# インフォメーション コーナー

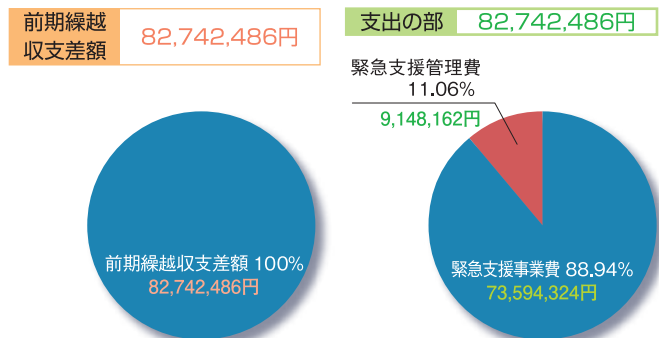
## ご報告 2012年度予算の概要

2012年度 特定非営利活動に係る事業 予算案  
2012年4月1日から2013年3月31日まで

次期繰越収支差額：53,177,537円  
前期繰越収支差額：49,523,375円  
当期収支差額：3,654,162円



## 2012年度東日本大震災緊急復興支援特別会計



2012年末をもって事業終了のため収入を見込まず、昨年度からの繰越金で事業を行います。

## ご報告 チャイルドと家族が自立を迎えました

フィリピンのチャイルドが在籍するセンター28、35の一部の地域では、チャイルドの親たちが立ち上げた住民組織を通して奨学金を提供するなど、教育や地域の問題を自分たちで担うまでに成長することができました。チャイルド・ファンド・ジャパンとセンターは協議の結果、本年5月末で各地域への支援を終結することに合意しました。人々のこのような成長は皆様からの大きなご支援の賜物です。深く感謝いたします。

## ご報告 杉並区でキャンペーン第2弾を実施しました

杉並区内に事務所を置くチャイルド・ファンド・ジャパンは「杉並区民の手でネパールに学校を！」キャンペーンを実施しました。今年、第2弾となったこのキャンペーンには杉並区民の皆様だけでなく、区外にお住まいの方々からたくさんの書き損じハガキや未使用切手を送っていただきました。



昨年のキャンペーン第1弾で完成したラメチャップ郡のサラスウォティ校

寄付いただいたハガキの枚数	11,052枚(487,413円分)
寄付いただいた切手の金額	315,563円
その他ご寄付いただいた金額	20,000円
総額	822,976円

ご協力くださった皆様に心より感謝申し上げます。

## ご報告 冬募金キャンペーンへのご協力ありがとうございました!

2011年12月より、ネパールで実施する「子どもにやさしい学校環境整備プロジェクト」へのご支援を皆様をお願いしていました。その結果、7,303,700円(900口、3月31日現在)のご協力をいただきました。ご支援によって、子どもたちが楽しく学校に通うことができます。皆様からの温かいご支援に心より感謝申し上げます。

## ご報告 たくさんのマイルを寄付いただきました

デルタ航空はマイレージ会員が貯めたマイルをチャイルド・ファンド・ジャパンなど12団体に寄付できる、「スカイウィッシュ・プログラム」を実施しています。東日本大震災後、同社がホームページなどを通してマイルの寄付を呼び掛けてくださったこともあり、2011年度は9,000,000マイル以上のご寄付がチャイルド・ファンド・ジャパンに寄せられました。心からお礼を申し上げます。ご寄付いただいたマイルは、東日本大震災の緊急・復興支援活動や開発途上国での支援事業を実施するうえで大切に使用いたします。デルタ航空をご利用の際は、同社、またはチャイルド・ファンド・ジャパンのホームページからマイル寄付のご協力をお願いいたします。



深町正信理事長がデルタ航空を訪問し、感謝状を贈呈しました。右から、デルタ航空の高橋雅治氏(広報部顧問)、岡田弘子氏(太平洋地区広報部長)、深町正信理事長、小林毅事務局長

### ChildFund Japan Vision Mission

チャイルド・ファンド・ジャパンはここに掲げるビジョン(目標)、ミッション(使命)に基づいて活動します。

### ビジョン(目標)

すべての子どもに開かれた未来を約束する国際社会の形成

### ミッション(使命)

生かし生かされる国際協力を通じて子どもの権利を守る

### チャイルド・ファンド・アライアンス



人種、宗教、性別、国籍を問わず世界の子どもたちに、効果的な支援活動をするためのネットワークで、子どもたちに向けたスポンサーシップ・プログラムを行う12団体から構成されています。チャイルド・ファンド・ジャパンは2005年4月に加盟しました。

スマイルズ  
＜チャイルド・ファンドだより SMILES＞ 2012年 5月発行  
〒167-0041 東京都杉並区善福寺2-17-5  
特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパン  
理事長 深町正信 事務局長 小林毅  
TEL. 03-3399-8123 FAX. 03-3399-0730  
E-mail: childfund@childfund.or.jp  
URL: http://www.childfund.or.jp/

〈デザイン〉  
モテデザイン研究所  
〈印刷〉  
有限会社東西印刷

